



# 日 乗 連 ニ ュ ー ス

## ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2006. 5. 29

No. 29 - 43

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

幹事会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office@alpajapan.org

## 61<sup>st</sup> IFALPA Annual Conference Istanbul 2006 Committee C 報告

4月28日~5月2日イスタンブールで行なわれたIFALPA 総会 Committee C の概要を報告します。Committee C は、Accident Analysis(AA)、Aerodrome & Ground Environment(AGE)、Aircraft Design & Operation(ADO)、Dangerous Goods(DG)、Helicopters(HEL)、International Flight Engineers(IFE) 6つのCommittee からなり、総会に提案されるPolicy に関する議題について、最終的な採決にかけるかどうかを各国の代表によって討議します。

今回の総会では、各委員長が年間活動報告をしたのち、各委員会で提案された議案について討議が行われ、最終的にすべての議案が総会で採択されました。今後ALPA Japanでも、この決議に基づき航空の安全のため活動することが求められます。

AGE委員会においては、A380が2006年冬からシンガポール航空によって運航されるため、新大型機のための飛行場環境整備(滑走路終端安全区域、誘導路の整備など)を積極的に働きかける必要があります。また、滑走路、誘導路の誤侵入は日本国内においても多発しており、パイロットフレンドリーなレイアウト、わかりやすい表示などミスが起こりにくい環境整備が必要です。

幹事会で決議したUAV(Unmanned Aerial Vehicles、無人機)に関しても、注視する必要があります。最近までUAVは軍事目的の物がほとんどでした。したがってICAO付属書やJARといった公的文書にはその使用について言及した規則は無く、唯一"See and Avoid"が適用されるのみです。また、最終的な責任者についても取り決めがありません。技術的な進歩により、UAVの使用することが出来る領域が著しく増加しています。UAVはミリタリーエリアへ行くのに民間エリアを横切っていかなければなりません。適切な運用規則無しでこれらの機材を通常航空機と同じ空域で共存させるのは航空の安全上大きな脅威となります。

防衛庁長官は1月、UAVを2007年度から配備する方針を明らかにしており、プレデター(RQ-1 Predator)がグローバルホーク(RQ-4 Global Hawk)になる予定です。プレデターは、25000ft-45000ftで巡航 滞空時間は約30時間の性能を持ち、最近では2006年1月13日パキスタンでアルカイダの残党を空爆しています。グローバルホークは、65000ftで巡航可能で滞空時間は35時間以上の性能を持ち、2月に米空軍が南西諸島上空など日本の防空識別圏内で約1時間にわたって「試験飛行」をすでに行なっています。今後とも情報収集し、しかるべきポリシー作りをしていきます。

